

# 「くらしの10年ロードマップ(案)」に対する意見募集の結果について

令和6年2月16日(金)

環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ライフスタイル推進室

「くらしの10年ロードマップ(案)」について、以下のとおり意見募集(パブリックコメント)を実施しました。

## 1. 概要

- (1)意見募集期間:令和5年12月19日(火)~令和6年1月18日(木)
- (2)実施方法:電子政府の総合窓口(e-Gov)
- (3)意見提出方法:e-Govの「意見提出フォーム」

## 2. 意見募集の結果

- (1)意見件数:18件うち有効件数18件
- (2)お寄せいただいた御意見の概要と御意見に対する考え方:別紙のとおり

## お寄せいただいた御意見の概要と御意見に対する考え方

※ 提出いただいた御意見から一部要約し、整理しています。

御意見の概要	御意見に対する考え方
<p>デコ活の推進には国を挙げての取組が必要であり、省庁連携を進めることを明記し、早急に連携強化をしていくべきである。</p>	<p>ご意見を踏まえ、本ロードマップ 1 ページ目「はじめに～ロードマップの位置づけ・役割・フォローアップ」において、省庁連携について追記させていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロードマップの本体資料には主語がなく参考資料まで読み込む必要がある。国民が自分事として捉えるためにも本体資料にも「主語」を明確に記載すべきである。</li> <li>・それぞれの取組に対し、事業規模及び目標年限を明確にする必要があるのではないか。</li> <li>・普及啓発の具体的な施策として、たとえば普及啓発を推進する組織を設置し、その位置付けをロードマップに記載すべきではないか。</li> <li>・各主体の連携協働のための中間支援組織として、全国地球温暖化防止活動推進センターや地域地球温暖化防止活動推進センターの位置付けの明確化が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ロードマップでは、各主体の活動範囲を限定しないためにも主語を明記しないようにしていることから原案のとおりとさせていただきます。</li> <li>・各業界団体等における新しい取組も含まれており、事業規模や目標年限を明確にすることが難しいため、原案のとおりとさせていただきます。</li> <li>・組織体制については、今後の取組状況等を踏まえて検討してまいります。</li> <li>・全国地球温暖化防止活動推進センター及び地域地球温暖化防止活動推進センターの位置付けについては、地球温暖化対策の推進に関する法律により定められており、本ロードマップで明確化する性質のものではないことから原案のとおりとさせていただきます。</li> </ul>
<p>金銭的インセンティブだけではない仕掛けによる意欲創出が重要である。</p>	<p>本ロードマップ 13 ページ目「⑦【基盤】情報（教育・ナッジ）、インセンティブ等」における「行動変容が促される効果的なナッジ」は、情報発信など金銭的インセンティブ以外の取組も対象としておりますので、原案のとおりとさせていただきます。</p>
<p>「年間 43 万円浮く」「年間 388 時間好きなことに使える時間が増える」について、計算根拠を明らかにしてほしい。</p>	<p>「年間 43 万円浮く」「年間 388 時間好きなことに使える時間が増える」については、環境省デコ活 web ページに掲出している以下の資料をご覧ください。</p> <p><a href="https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/common/file/20221208_cn_lifestyle.pdf">https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/common/file/20221208_cn_lifestyle.pdf</a></p>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの取組について、特に個人の小さな取組でも国全体でどれだけの大きな効果が得られるか等、できるだけ具体的に示すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ロードマップ2ページ目「ロードマップのスコープ」に記載している「脱炭素につながる新しい豊かな暮らしの10年後」は、暮らし全領域での個人の取組の集積により、10年後、2030年度温室効果ガス削減目標である46%削減を達成している絵姿となっております。それぞれの取組の削減効果は、環境省デコ活webページに掲載している以下の資料をご覧ください。 <a href="https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/common/file/20221208_cn_lifestyle.pdf">https://ondankataisaku.env.go.jp/decokatsu/common/file/20221208_cn_lifestyle.pdf</a></li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・費用負担の大きな取組だけでなく、普段の生活でできるようなハードルの低い取組についてもロードマップに示すべきである。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本ロードマップでは、国民・消費者の皆様が、より普段の生活に取り入れ、実践につながる対策について、官民連携で促進されることを目的に記載しているところです。例えば8ページ目「③【衣】クールビズ・ウォームビズ、サステナブルファッションの実践」では、個人が普段の生活でより取り組みしやすくなるよう、官民連携による快適でおしゃれな服装や着こなし方法を提案するとともに、サービスとして提供することも対策として記載しております。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者が安心して工事を依頼できる施工事業者を選択できる情報提供が必要。</li> <li>・住宅用太陽光発電は良いと思うが、山岳や森林部を切り拓くメガソーラーは森林のCO2吸収効果の低下や土砂災害被害の拡大を招くため、推進すべきではない。</li> <li>・太陽光発電パネルはその生産が中国頼みとなっているが、経済安全保障、信頼性、環境負荷等の観点から国産化を推進すべき。</li> <li>・太陽光発電設備は、初期費用以外に、耐用年数、修繕・廃棄等のランニングコストが不明である。このため、初期費用だけでなくライフサイクル全体の負担等についても情報発信してほしい。</li> <li>・太陽光パネルは、火災発生リスクがあり、廃棄時のコストや処理の課題がある。こうした負の情報も提供しなければ信頼性を失ってしまうので</li> </ul>	<p>今後参考とさせていただくための御意見として、掲載させていただきます。</p>

はないか。

・太陽光発電は廃棄の際の環境負荷が大きく、導入に反対。

・太陽光パネルは処分方法に課題があると聞いている。処分まで含めたトータルでの環境負荷や、処分方法も併せて国民に情報提供すべき。

・給湯器や電動車は、石化由来燃料ではなく、より環境負荷の軽いバイオエタノールを用いたものとするべき。太陽光発電についても、アルコールによる発電等で代替を検討すべき。

・洗濯機でのすすぎ1回や食洗機での冷水洗浄では、汚れが落ちないのではないか。むしろ大麦やアブラナの生産量を多くし、環境に優しい洗剤を使うようにするべきである。

・サステナブルファッションに和綿を加えるべき。冬でも暖かく過ごすことができる。

・消費者の取組ばかりが書いてあるが、まずは製造・小売事業者からエコな商品の製造・販売に取り組むことが重要だ。特に、パッケージの簡素化、プラスチック以外の容器包装の利用、リサイクルや分別がしやすいパッケージの利用、詰替用製品・サービスの拡大等、企業や店舗が率先して取り組むべきである。

・ごみの分別はほどほどにするべきで、再生コストが高いものまで分別させないでほしい。プラスチックは燃やして熱回収した方がトータルのエネルギー量からすると効率的なのではないか。

・食品などの製造者・販売者において容器包装のプラスチックを削減する取組が必要。

・プラスチックごみが分別回収されず焼却されている中では、バイオプラスチック等に切り替えてもCO2排出量は変わらないのではないか。

・リサイクルの場所や仕組みなど、エコに関する情報については、テレビやネットでの広報普及が必要だ。特に高齢化が進展している今、高齢者が多く視聴するテレビ向け広告は重要である。

・代替肉等については、雑穀の消費促進により、そもそも食肉の消費量を減らすべきである。

- |   |  |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・地産地消される農林水産品には補助金を出すべきである</li><li>・畜産業は CO2 排出量が大きいため抑制し、代替的なタンパク源として玄米食を普及すべき。</li><li>・電動車の利用促進とあるが、発電・給電に当たり CO2 を排出しているため意味がないのではないか。</li><li>・電気自動車も、製造及び給電にあたって CO2 を発生するため、脱炭素効果が小さく疑問が残る。</li><li>・電気自動車については、生産時にガソリン車よりも CO2 の排出が多いため、ガソリン車に比べてトータルでエコにならないと聞いている。処分方法の問題もあるため、安易に電気自動車を普及させるべきではない。</li><li>・西洋医学よりも鍼灸や漢方等の方が環境負荷が小さいはずで、補助金を出すべきである。</li></ul> |  |
|---|--|

以上